

第5章 地域別構想

下線：図面との関連箇所

1. 地域区分の設定

地域別構想では、「第4章 全体構想」を念頭に置きながら、地域ごとの特性に応じた将来像に基づく方針を設定します。

地域区分については、下図に示すように、本町の中心に位置し、用途地域が指定された「中心地域」と、中心地域を取り囲む「農業集落地域」、本町の東側に位置する「国立公園地域」の3つの地域に分類して整理します。



図. 地域区分

第5章 地域別構想

2. 中心地域の将来構想

(1) 地域の現状と課題

社会状況、地形・土地利用、道路・交通体系などの項目に区分しながら、中心地域における現状と課題を以下に整理します。

社会状況	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○湯田中渋温泉郷は、本町の観光拠点の1つ ○商店街の活力低下（中心市街地での空き家・空き店舗の集中） ○人口の減少、少子高齢化の進行 ○外国人観光客の増加 ○観光客総数は概ね横ばいで推移、令和2年（2020年）以降は新型コロナウイルス感染症の影響による来訪者の大幅な減少
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○住民生活と観光振興が共生したまちづくり ○中心市街地の活力再生、空き家・空き店舗の有効活用 ○移住定住対策の促進、福祉環境の充実 ○公共施設等のユニバーサルデザイン化
地形、土地利用	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○河岸段丘の限られた土地に形成された中心市街地 ○中心市街地の周囲は山林や田畑などの自然が豊か ○用途地域の指定は住居系・商業系のみ
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○周囲の自然環境と調和した中心市街地の形成 ○建物用途の混在と住宅等の過密化の解消
道路、交通体系	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○長期未整備の都市計画道路の存在 ○温泉街・商店街の都市計画道路整備によるまちなみ喪失の懸念 ○安全な歩行者・自動車の通行や大型車両の通行が困難な狭あい道路の存在 ○鉄道やバスなどの公共交通ネットワークが集中する交通結節点
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○社会情勢や現在のまちづくり方針に合わせた道路網の見直し ○都市計画道路湯田中穂波線、都市計画道路箱山沓野線の整備促進 ○住民生活と観光振興が両立できる安全で歩いて楽しい道づくり ○冬期間の克雪・除雪対策 ○公共交通の利便性向上と利用促進
主要施設	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○来訪者のための駐車場の不足 ○子どもなどが利用できる公園の不足、既存の公園の老朽化
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○駐車場、公共空き地の確保 ○既存の公園施設の改善 ○みろく公園周辺の有効活用
環境、景観	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○背後の自然環境と調和した中心市街地 ○夜間瀬川沿い（穂波温泉側）の桜並木など、良好な河川景観 ○夜間瀬川や温泉街から見える良好な眺望景観 ○歴史的に貴重な木造の温泉旅館が多数存在 ○空き家、老朽化・廃業施設の増加 ○中小河川の水質の維持
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な都市環境やまちなみ景観の保全・継承 ○桜並木の保全 ○建築物等の適正な景観誘導と眺望景観の保全 ○温泉街の歴史的建造物の保全 ○空き家、老朽化・廃業施設の活用・除去 ○下水道接続の普及促進
防災	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○土砂災害、洪水などの自然災害に対する懸念 ○空き家、老朽化・廃業施設の増加
	取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ○治山・治水対策など、災害に強いまちづくり ○空き家の適正管理の啓発

(2) アンケート調査結果による地域住民の意向

町民アンケート結果のうち、中心地域（沓野・湯ノ原、渋・横湯、金安、星川、湯田中、上条、湯河原、穂波温泉）の居住者における、アンケート結果を以下に示します。

①生活環境の満足度について

満足度（「満足」と「やや満足」の合計）については、「下水道の整備」が38.5%と最も高く、次いで、「上水道の整備」が38.1%、「住宅地の整備」が24.6%と続いています。

一方、不満度（「不満」と「やや不満」の合計）については、「公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」が72.2%と最も高く、次いで、「買い物の便利さ」が62.3%、「歩行者・自転車道の整備」が55.6%と続いています。

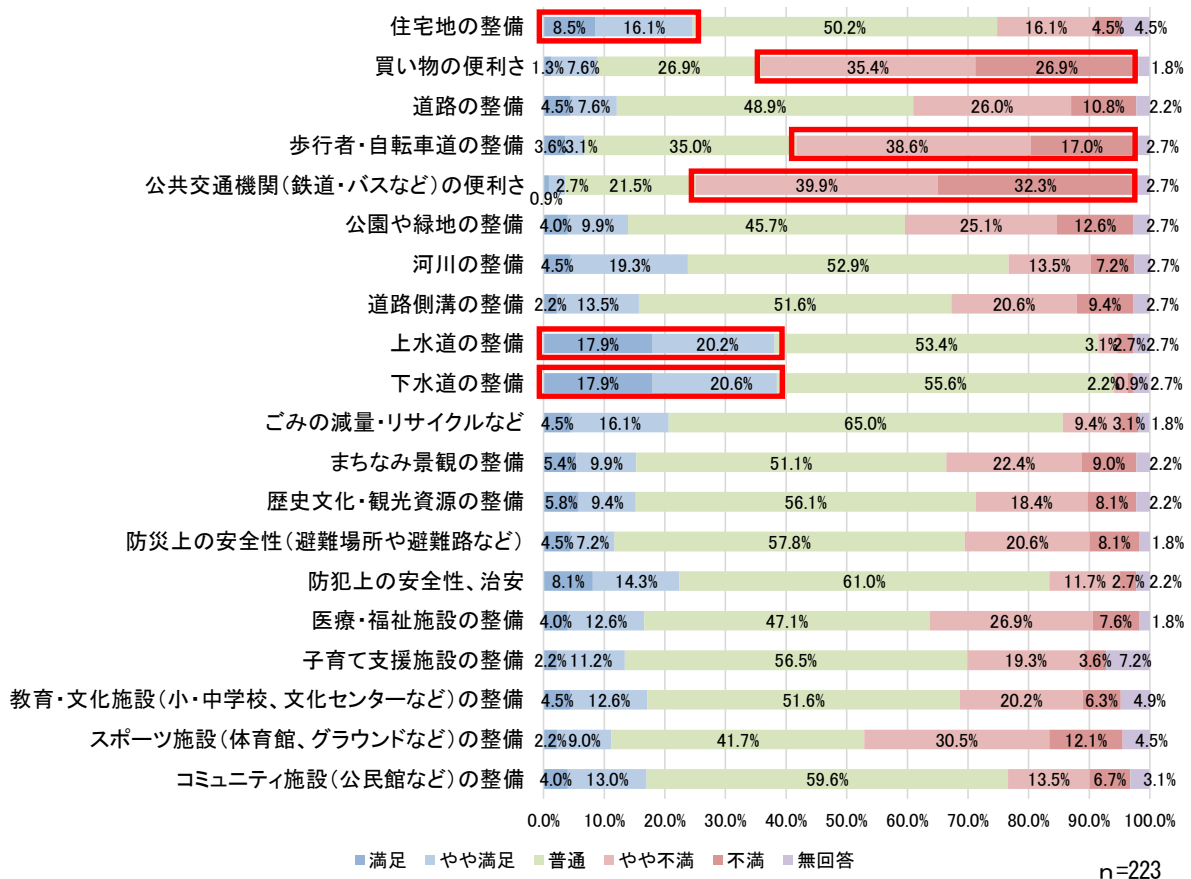


図. 生活環境の満足度について

第5章 地域別構想

②将来の山ノ内町について

「観光・交流が盛んなまち」が37.2%と最も高く、次いで、「災害に強い安全・安心なまち」が34.5%、「医療・福祉環境が充実したまち」が30.0%と続いています。

③今後の『計画的な土地利用の推進』について

「用途地域において道路や上下水道、公園等の整備を集中して行い、周辺地域は規制しつつ、計画的な土地利用を推進することが望ましい」が51.6%と最も高く、次いで、「町全体にミニ開発が点在する中で、用途地域による土地利用規制は難しく、それ以外の方法で規制することが望ましい」が20.2%、「しばらくは現状維持が望ましい」が16.6%と続いています。

④まちづくりの優先度について

「市街地と農村」の優先度では、「どこでも暮らせるまち」が52.0%、「都市環境と自然環境」の優先度では、「自然環境の保全を優先したまち」が46.2%、「同じ」が33.6%、「住民生活と観光振興」の優先度では、「同じ」が40.4%、「住民生活を優先したまち」が39.0%となっています。

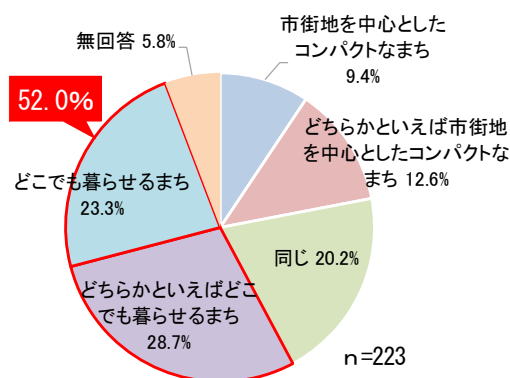


図. 市街地と農村

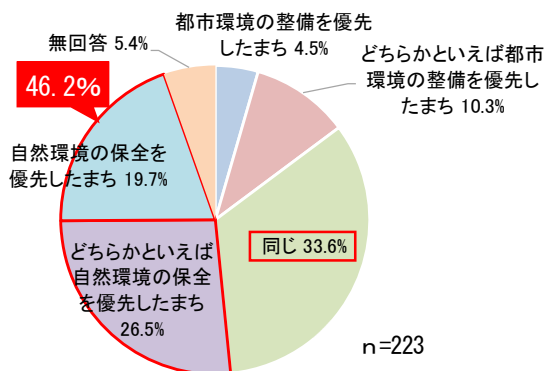


図. 都市環境と自然環境

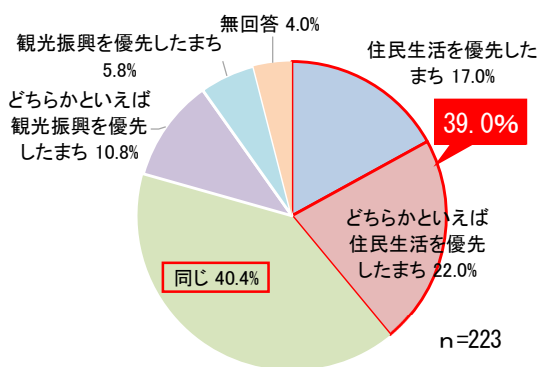


図. 住民生活と観光振興

●アンケート結果まとめ（中心地域）

- ・ 将来の山ノ内町については、「観光・交流が盛んなまち」「災害に強い安全・安心なまち」「医療・福祉環境が充実したまち」であることを望む意見が多い。
- ・ まちづくりの優先度としては、「どこでも暮らせるまちづくり」「自然環境の保全」「住民生活」を比較的重視した意見が多いが、「都市環境」と「自然環境」、「住民生活」と「観光振興」を同程度重視した意見も多い。

(3) 地域の将来像

本町の中心地であり、行政機能を始めとして鉄道駅などの公共交通の拠点周辺には都市機能※¹が集積するほか、温泉街として多くの来訪者が訪れます。

住民にとって住みよい居住環境の形成を図るとともに、「湯田中渋温泉郷」としての観光ブランドを今後も維持・向上させていくため、温泉街のまちなみ景観、道路と建築物等の沿道景観、近景の里山、遠景の山並み等の自然景観が調和するまちづくりに取り組みます。

※1 都市機能：店舗、飲食店などの商業機能、工場などの産業機能、事務所などの業務機能、劇場などの文化交流機能などをいう。

住んでいる人、訪れる人が元気でにぎわうまちの形成

(4) 土地利用の方針

- 今後も、大規模な開発を制限した適正な土地利用を誘導するとともに、歴史ある温泉街の風情と周囲の山・川を活かした土地利用の誘導を継続します。
- 湯田中駅周辺は、公共交通の維持に努めるとともに、観光バスや来訪者のための駐車場や、楓の湯を中心とした交流の場を活用し、賑わいの創出を図ります。
- 「山ノ内町公共施設個別施設計画」に基づき、湯ノ原団地や座王団地などの町営住宅については、老朽化が目立っており、良好な住環境を提供するための施設の改善、また、除却や除却後の跡地利用の検討を進めるとともに、老朽化が顕著な公共施設の整備・改善を推進します。
- 住宅地については、用途地域の指定を遵守しながら、道路・公園などの都市基盤の整備・充実などにより、良好な住宅地の維持向上を図ります。
- 定住・移住を促すため、住宅及び宅地の整備、低・未利用地や空き家の適正な管理や有効活用を促進し、良好な住環境の形成を図ります。
- 木造建築物が密集した地区については、避難・延焼遮断空間の確保に資する道路・公園等の整備、建築物の耐震化や倒壊等の恐れがある老朽建築物の除却や整備等を行い、災害に強く安全性を確保できる土地利用を推進します。
- 小学校については、「山ノ内町立小学校適正規模及び適正配置に係る基本方針」を踏まえ、小学校統合による空き校舎の利活用検討を含め、小学校の統合計画を推進していきます。
- 用途地域内において、農業振興に欠かせないエリアについては、用途地域の見直しを検討します。
- 沿道活用地域では、幹線道路沿道の交通利便性を活かした柔軟な土地利用に対応しながら、住宅のみならず、店舗やサービス施設等の商業業務施設の立地を誘導し、地域の生活利便性の向上と賑わいのある沿道利用型土地利用の形成を図ります。
- 商業地・温泉地については、賑わいに寄与する施設や生活利便施設の立地誘導、空き店舗の有効活用や起業家の支援、良好な景観形成などによる魅力向上を図ります。

(5) 都市施設整備の方針

1) 道路・交通の方針

- 観光拠点となる温泉街の再生を目指し、都市計画道路の見直しを行うとともに、現道幅員を維持しながら沿道の歴史ある建築物と調和した観光道路の整備、安全に歩ける歩行空間の確保により、人が集い賑わえる、快適に歩いて楽しめるまちづくりに取り組みます。
- 渋温泉については、良好な沿道景観と安全に歩ける歩行空間の確保に向けて、石畳の改修を行います。
- 湯田中温泉の「かえで通り」については、温泉街にふさわしい道路環境の整備を検討します。
- 観光バスのアクセス道路を確保するとともに、来訪者のための駐車場の整備を推進します。
- 少子高齢化社会に対応するため、鉄道やバスなどの公共交通の維持と利用促進対策を推進します。
- 雪に強い道づくりに向けた道路整備に取り組むとともに、冬期間における交通安全対策を推進します。
- 幹線道路や学校周辺等では、歩行者や自転車による通行の安全性を確保するとともに、バリアフリー化を促進します。
- 温泉街や商業地などの道路では、ユニバーサルデザインに基づく歩行者空間の確保を図ります。
- 温泉街や商業地、住宅地については、緑化などを推進し、親しみやすい道路空間の形成を図ります。
- 湯田中渋温泉郷へのアクセス道路については、路肩部分の除草、支障木の処理など景観に配慮した道路空間の形成を図ります。
- 鉄道や路線バスについては、通勤・通学、買い物、観光などの利用者ニーズを把握しながら、鉄道とバスの連携強化など、利用促進に向けた取り組みを推進します。

2) その他の都市施設整備の方針

- 公園については、遊具の老朽化が進行していることなどから、定期的な点検のうえ必要に応じて、改修を推進します。
- みろく公園周辺は、湯田中温泉と渋温泉の中間に位置しており、来訪者のための駐車場や交流拠点として一帯の活用を図ります。

(6) 自然環境保全・都市環境形成の方針

- 「志賀高原ユネスコエコパーク活動支援補助金」の活用などを促しながら、志賀高原ユネスコエコパーク内の自然環境、生物多様性の保護・保全とそれに関わる地域の伝統産業、生活・文化の継承・発展を推進します。

- 自然環境、歴史的・文化的環境の保全・利活用を推進し、市街地の利便性向上や観光地としての魅力向上を図ります。
- 地域住民と行政の協働による地域美化活動を推進します。

(7) 景観形成の方針

- 河岸段丘と洪積台地にまちなみが形成され、眺望やロケーションに優れた環境を活かすとともに、歴史や特徴ある建築物・文化財の保護、道路や沿道建築物等が調和した景観形成に努め、風情ある温泉街の景観形成を図ります。
- 住民が主体となり、まちづくり・景観形成に取り組める環境を整えるとともに、まちづくりに必要な支援に取り組みながら、住民と関係団体、行政が一体となって景観形成を推進します。
- 緑豊かなまちなみ景観を創出するため、花いっぱい運動や緑化活動を推進します。また、特定外来植物の除去を推進します。
- 湯田中駅前温泉楓の館など、地域に位置する文化財の保護・保存・活用により、歴史的景観を受け継いでいきます。
- 空き家については、良好な都市景観を阻害する恐れがあるため、所有者に対して適切な維持管理や空き家バンク事業の活用などの改善を促していきます。
- 金倉地域や洪温泉では、景観づくり住民協定に基づき、今後も、受け継がれてきた地域の歴史・伝統ある良好な景観を保全するため、景観づくり事業補助金などによる支援を行います。

(8) 都市防災の方針

- 地すべりやがけ崩れ、土石流等の土砂災害、洪水等の水災害の予防対策に努めます。
- 木造建築物等が密集する地域では、緊急車両の通行や避難・延焼遮断空間の確保に資する道路・公園等の整備、建築物の耐震化や倒壊等の恐れがある老朽建築物の除却や整備等を行い、災害に強く安全なまちづくりを推進します。
- 老朽化した危険な空き家については、周辺居住環境へ及ぼす危険性を速やかに排除するため、自治会等と連携し状況の把握に努め、建替えや除却を促すなど、迅速な防災対策の強化に努めます。
- 地域防災計画や国土強靱化地域計画に基づき、指定緊急避難場所、指定避難所については、多数の避難者を受け入れるため、給水施設、非常用電源、各種トイレ、情報通信環境の整備など、安全・安心に避難できる機能強化を推進します。

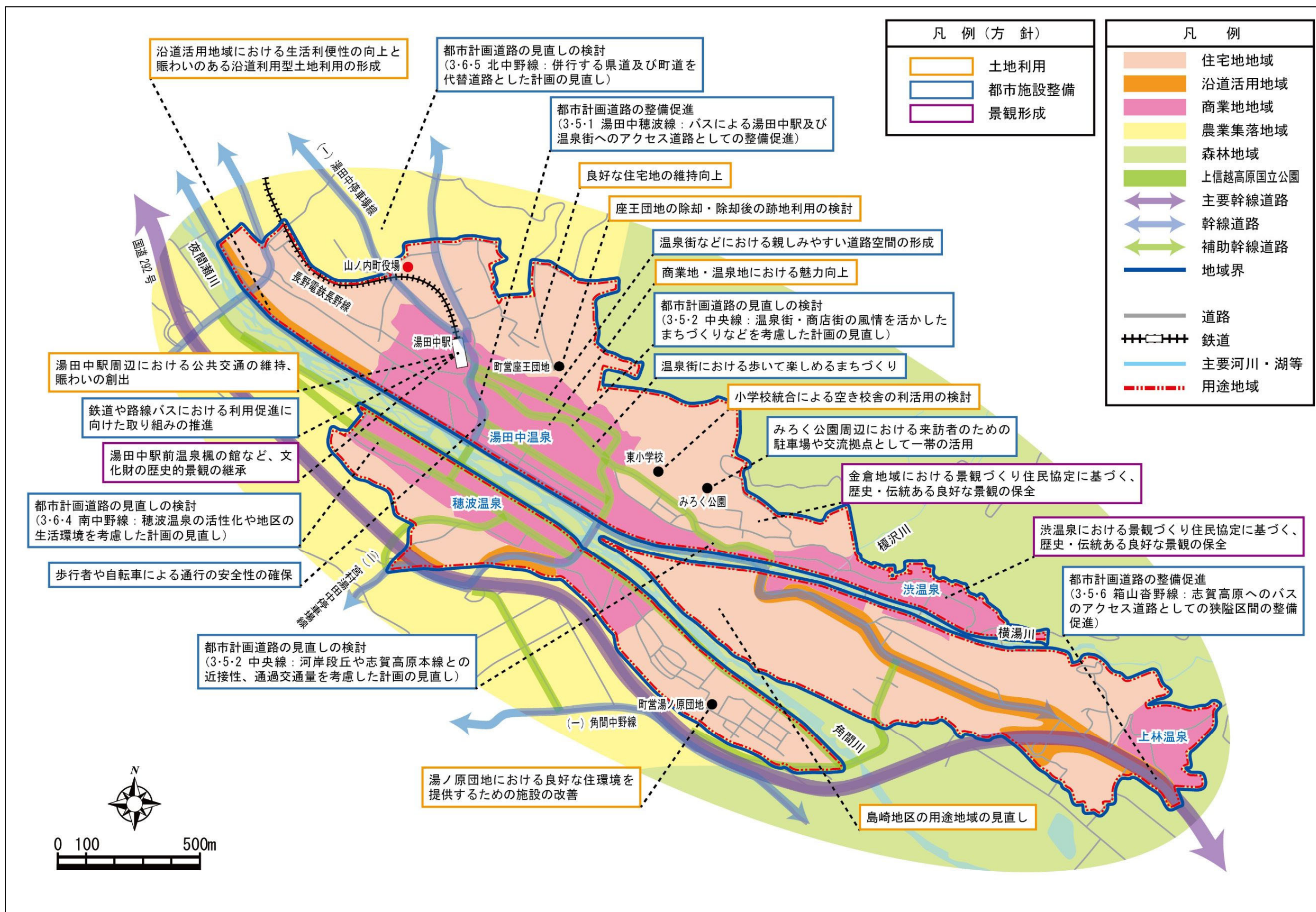


図. 中心地域のまちづくり方針

3. 農業集落地域（森林地域含む）の将来構想

(1) 地域の現状と課題

社会状況、地形・土地利用、道路・交通体系などの項目に区分しながら、農業集落地域における現状と課題を以下に整理します。

社会状況	現状・問題点	○人口の減少、少子高齢化の進行 ○中心的産業である農業従事者の高齢化、後継者不足 ○北志賀高原は、本町の観光拠点の1つ
	取組方針	○集落地の居住環境の改善 ○観光拠点の連携、活性化 ○農業従事者の育成、新規参入支援などによる農業の維持
地形、土地利用	現状・問題点	○高社山等の山々からの傾斜地での農地や集落の形成（北西部） ○夜間瀬川南岸の段丘での農地、集落の形成（南部） ○遊休農地の増加、山際の農地は耕作がされず山林化が進行
	取組方針	○住み慣れた土地での生活を維持できる拠点の形成 ○遊休農地の再生、担い手農家への利用集積 ○田舎暮らし需要に合わせた宅地整備
道路、交通体系	現状・問題点	○隣接村へアクセスする国道403号の狭あい区間や一般県道宮村湯田中停車場線の未整備区間の存在 ○集落内における狭あい道路、2車線未整備道路の存在 ○地域住民の生活に欠かせないバスなどの存在
	取組方針	○国道403号や一般県道宮村湯田中停車場線の整備促進 ○冬期間の安全対策、生活道路の整備拡充 ○市街地などと連絡する公共交通ネットワークの充実
主要施設	現状・問題点	○子どもなどが利用できる公園の不足
	取組方針	○既存の公園施設の改善
環境、景観	現状・問題点	○農地や緑豊かな山並みと調和した農村集落地 ○高社山・北信五岳を遠景とする良好な眺望景観 ○空き家、老朽化・廃業施設の点在 ○幹線道路を中心とした屋外広告物の無秩序な設置 ○中小河川の水質の維持
	取組方針	○農地や緑豊かな山並みと調和した農村の原風景の保全 ○農村の原風景を阻害する大規模建築物等の景観誘導 ○空き家、老朽化・廃業施設の活用・除去 ○屋外広告物の適正化と規制誘導 ○下水道接続の普及促進
防災	現状・問題点	○土砂災害、洪水などの自然災害に対する懸念 ○空き家、老朽化・廃業施設の点在
	取組方針	○治山・治水対策など、災害に強いまちづくり ○空き家の適正管理の啓発

第5章 地域別構想

(2) アンケート調査結果による地域住民の意向

町民アンケート結果のうち、農業集落地域（佐野、菅・寒沢、戸狩、本郷・宇木、横倉・前坂、須賀川）の居住者における、アンケート結果を以下に示します。

①生活環境の満足度について

満足度（「満足」と「やや満足」の合計）については、「下水道の整備」が34.5%と最も高く、次いで、「上水道の整備」が29.5%、「住宅地の整備」が21.0%と続いています。

一方、不満度（「不満」と「やや不満」の合計）については、「公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」が68.5%と最も高く、次いで、「買い物の便利さ」が58.5%、「歩行者・自転車道の整備」が48.0%と続いています。

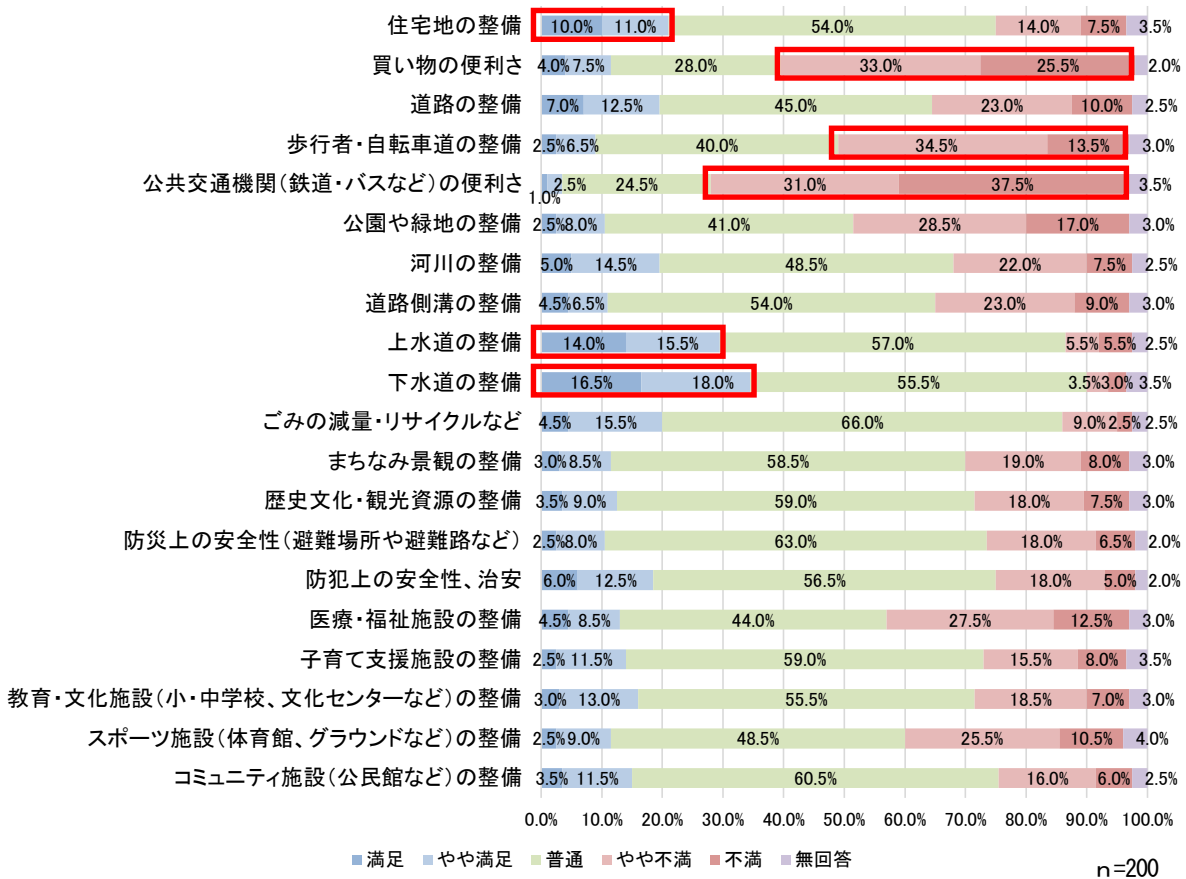


図. 生活環境の満足度について

②将来の山ノ内町について

「医療・福祉環境が充実したまち」が40.0%と最も高く、次いで、「観光・交流が盛んなまち」が32.0%、「産業（農・商・工業）が盛んなまち」が31.0%と続いています。

③今後の『計画的な土地利用の推進』について

「用途地域において道路や上下水道、公園等の整備を集中して行い、周辺地域は規制しつつ、計画的な土地利用を推進することが望ましい」が54.0%と最も高く、次いで、「しばらくは現状維持が望ましい」が20.0%、「町全体にミニ開発が点在する中で、用途地域による土地利用規制は難しく、それ以外の方法で規制することが望ましい」が16.5%と続いています。

④まちづくりの優先度について

「市街地と農村」の優先度では、「どこでも暮らせるまち」が69.5%、「都市環境と自然環境」の優先度では、「自然環境の保全を優先したまち」が58.5%、「住民生活と観光振興」の優先度では、「住民生活を優先したまち」が42.0%、「同じ」が41.0%となっています。

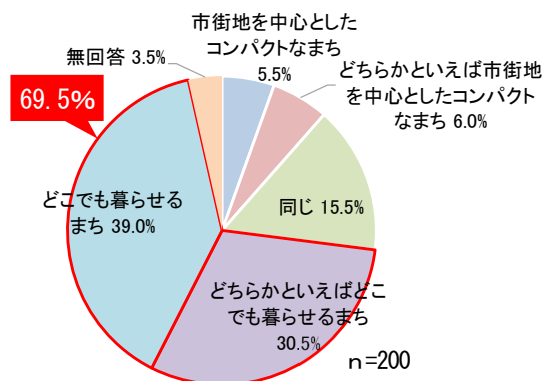


図. 市街地と農村

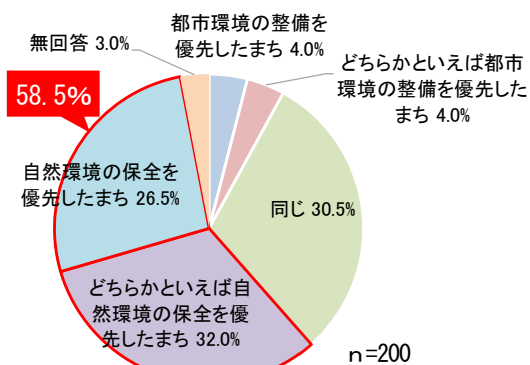


図. 都市環境と自然環境

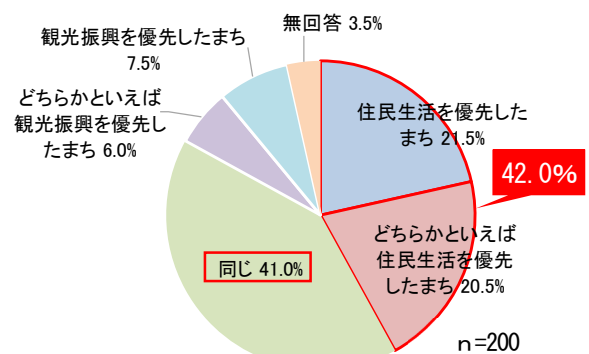


図. 住民生活と観光振興

●アンケート結果まとめ（農業集落地域）

- ・将来の山ノ内町については、「医療・福祉環境が充実したまち」「観光・交流が盛んなまち」「産業（農・商・工業）が盛んなまち」であることを望む意見が多い。
- ・まちづくりの優先度としては、特に「どこでも暮らせるまちづくり」「自然環境の保全」を重視した意見が多い。

(3) 地域の将来像

町の西側に広がる農業集落地域は、果樹園や水田、そば畑等が広がり、その中に集落が点在しています。

志賀高原や高社山麓の山々に囲まれ、季節ごとに花や緑、実りの時期など四季折々の変化がみられ、昔から変わらない地域の原風景です。

この風景の維持に努めながら、農村集落の住みよい居住環境の形成を目指します。また、良好な環境と調和した魅力ある高原リゾート地域の形成に取り組みます。

四季彩と恵み豊かな“ふるさと”の形成

(4) 土地利用の方針

- 農業及び生活環境の改善に努めるとともに、新たな農業の担い手となるU・I・Jターン希望者を受入れる居住環境の整備や、遊休農地を担い手に集積・集約化するなどにより、農地の保全に取り組みます。
- 幹線道路周辺など中心拠点地域や近隣市町村とのアクセスが良いエリアについては、住宅地としての需要も見込まれるため、住宅及び宅地の整備を促進します。
- 町民住宅については、除却を見据えた計画的な改修を実施するとともに、除却後の跡地利用を推進します。
- 「人・農地プラン」などに基づき、農業経営の強化や人材育成などを推進するとともに、無秩序な農地の転用を防止し、農業生産基盤の維持を図ります。
- 遊休農地等の再生に対する支援など、農地の保全と有効活用を促進します。
- 森林地域においては、豊かな水源としての水源涵養機能、山地災害防止、木材生産等の多面的機能の高度発揮を維持します。
- 北志賀高原は、高原のリゾート地として、観光客のニーズを把握しながら、ウインタースポーツに加え、それら以外での誘客を一層推進するとともに、自然と調和した良好な景観が保全された観光地として交流促進と環境保全が調和した土地利用を推進します。

(5) 都市施設整備の方針

1) 道路・交通の方針

- 地形的な制約がある町内において、国道 403 号や一般県道宮村湯田中停車場線の整備・改良を推進し、隣接市村との連携強化を図ります。
- 集落地では、道路幅員の拡幅や線形の改良などの道路整備により、生活道路の機能向上を図ります。
- 雪に強い道づくりに向けた道路整備に取り組むとともに、冬期間における交通安全対策を推進します。
- 幹線道路や学校周辺等では、歩行者や自転車による通行の安全性を確保するとともに、バリアフリー化を促進します。
- 北志賀高原へのアクセス道路については、路肩部分の除草、支障木の処理など景観に配慮した道路空間の形成を図ります。
- 国道 292 号については、リゾート地へ誘う玄関口として、景観に配慮した道路空間の形成を推進します。
- 通勤・通学、買い物などの利用者ニーズを把握しながら、鉄道・路線バスの維持、地域コミュニティバスの安定運行などに努め、市街地と周辺地域を連絡する公共交通ネットワークの充実を図ります。

2) その他の都市施設整備の方針

- 夜間瀬川周辺については、町民が河川に親しめる環境整備を目指します。
- 公園については、遊具の老朽化が進行していることなどから、必要に応じて、改修を推進します。

(6) 自然環境保全・都市環境形成の方針

- 「志賀高原ユネスコエコパーク活動支援補助金」の活用などを促しながら、志賀高原ユネスコエコパーク内の自然環境、生物多様性の保護・保全とそれに関わる地域の伝統産業、生活・文化の継承・発展を推進します。
- 自然環境、歴史的・文化的環境の保全・利活用を推進し、生活利便性や農業の生産性向上、観光地としての魅力向上を図ります。
- 地域住民と行政の協働による地域美化活動を推進します。

(7) 景観形成の方針

- 農地と農村集落、豊かな自然環境が調和した景観形成を図ります。
- 良好な景観を阻害する大規模建築物・工作物の規制誘導を行うとともに、老朽化・廃業施設の除去を促進します。
- 緑豊かなまちなみ景観を創出するため、花いっぱい運動や緑化活動を推進します。また、特定外来植物の除去を推進します。
- 佐野遺跡や鎮守の森など、地域に位置する文化財の保護・保存・活用により、歴史的景観を受け継いでいきます。
- 空き家については、良好な都市景観を阻害する恐れがあるため、所有者に対して適切な維持管理や空き家バンク事業の活用などの改善を促していきます。

(8) 都市防災の方針

- 地すべりやがけ崩れ、土石流等の土砂災害、洪水等の水災害の予防対策に努めます。
- 山間部では、森林を保全し、地すべりなどの自然災害を予防する治山・治水対策に取り組みます。
- 老朽化した危険な空き家については、周辺居住環境へ及ぼす危険性を速やかに排除するため、自治会等と連携し状況の把握に努め、建替えや除却を促すなど、迅速な防災対策の強化に努めます。
- 地域防災計画や国土強靱化地域計画に基づき、指定緊急避難場所、指定避難所については、多数の避難者を受け入れるため、給水施設、非常用電源、各種トイレ、情報通信環境の整備など、安全・安心に避難できる機能強化を推進します。

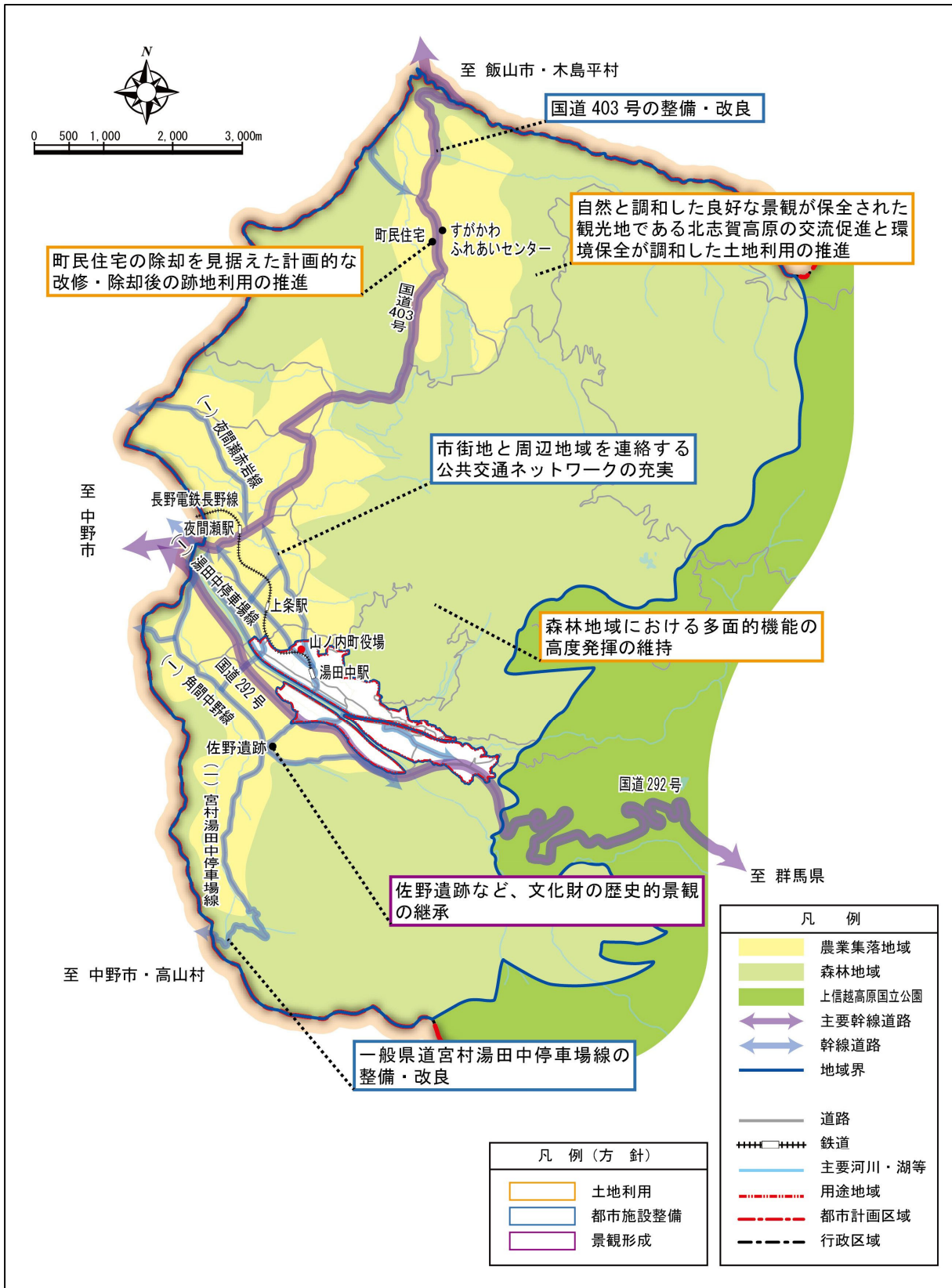


図. 農業集落地域のまちづくり方針

第5章 地域別構想

4. 国立公園地域の将来構想

(1) 地域の現状と課題

社会状況、地形・土地利用、道路・交通体系などの項目に区分しながら、国立公園地域における現状と課題を以下に整理します。

社会状況	現状・問題点	○志賀高原の恵まれた自然を活かした観光リゾート地 ○観光客総数は概ね横ばいで推移、令和2年(2020年)以降は新型コロナウイルス感染症の影響による来訪者の大幅な減少
	取組方針	○観光ニーズに対応した集客施策 ○年間を通じての観光リゾート地の活性化
地形、土地利用	現状・問題点	○標高2,000m級の山々が連なる上信越高原国立公園 ○豊かな生態系が残る自然地
	取組方針	○自然地とリゾート地の共存 ○森林セラピー基地としての利用 ○山内の観光事業従事者が生活を維持できる拠点の形成
道路、交通体系	現状・問題点	○国道292号が主要幹線道路であり、県道豊野南志賀公園線、県道奥志賀公園線、県道奥志賀公園栄線が幹線道路 ○迂回路や並行路線が無く、冬期観光シーズンなどは混雑が発生
	取組方針	○市街地や周辺都市と連絡する道路・交通ネットワークの充実 ○自然環境と調和を図りつつ、観光交通への対応 ○冬期間の安全対策 ○環境負荷低減を意識した自転車レーンの増設や環境整備
主要施設	現状・問題点	○スキー場施設をはじめ、様々な観光施設の立地
	取組方針	○スキー場をはじめとした観光リゾート地としての集客力の強化 ○冬期間以外の観光施設の有効活用
環境、景観	現状・問題点	○国立公園でもある豊かな自然環境と魅力的な景観 ○ユネスコパークの核心地域、緩衝地域 ○老朽化・廃業施設の点在 ○中小河川の水質の維持
	取組方針	○自然環境の保全、自然公園法に基づいた適正な土地利用・景観保全の継続 ○自然環境を活かしたリゾート空間としての景観整備 ○老朽化・廃業施設の活用・除去 ○排水施設の適正な維持管理
防災	現状・問題点	○土砂災害、洪水などの自然災害に対する懸念 ○老朽化した空き施設などの増加
	取組方針	○治山・治水対策など、災害に強いまちづくり ○空き施設の適正管理の啓発

(2) アンケート調査結果による地域住民の意向

町民アンケート結果のうち、国立公園地域（志賀高原）の居住者における、アンケート結果を以下に示します。

①生活環境の満足度について

満足度（「満足」と「やや満足」の合計）については、「河川の整備」が33.3%と最も高く、次いで、「住宅地の整備」、「まちなみ景観の整備」、「防犯上の安全性、治安」が共に22.2%と続いています。

一方、不満度（「不満」と「やや不満」の合計）については、「歩行者・自転車道の整備」、「公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」が100.0%と共に最も高く、次いで、「買い物の便利さ」が88.9%と続いています。

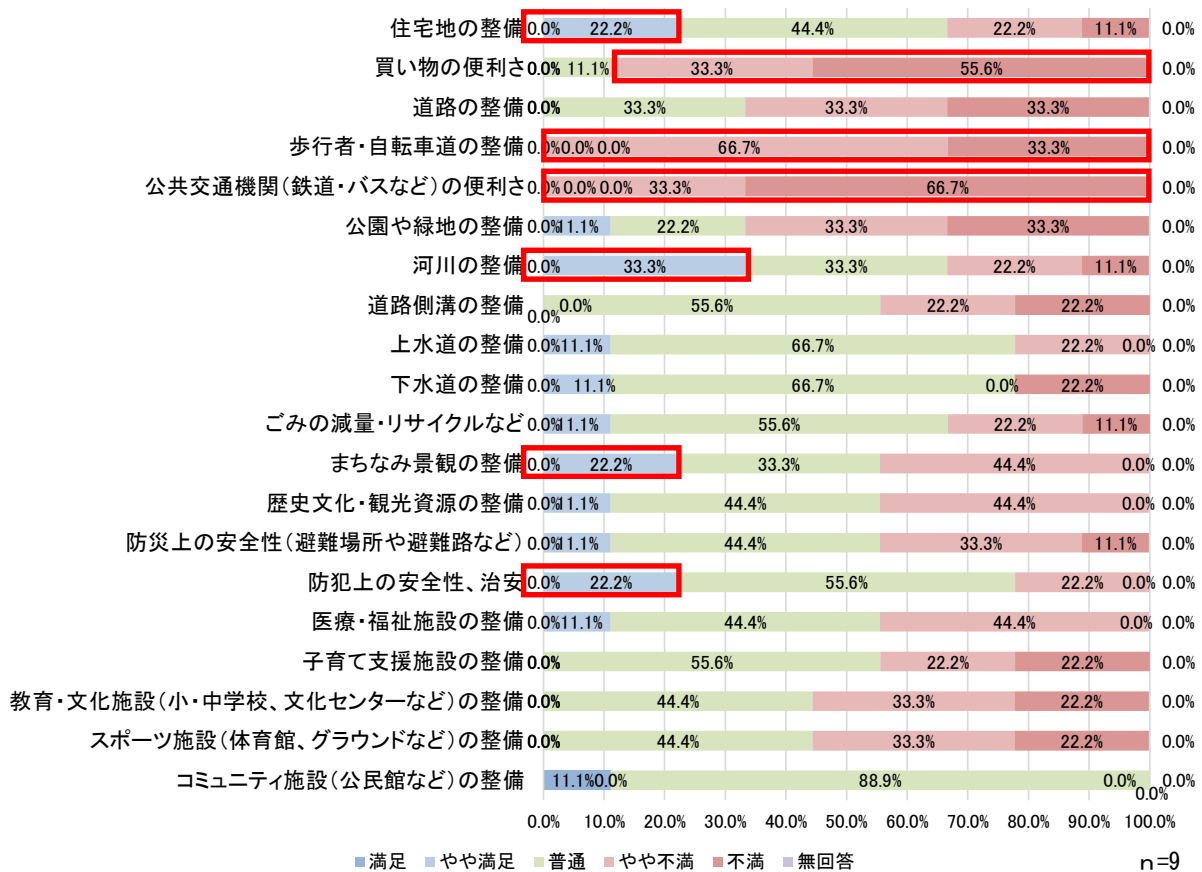


図. 生活環境の満足度について

第5章 地域別構想

②将来の山ノ内町について

「公共交通が充実したまち」が 55.6%と最も高く、次いで、「自然環境（国立公園など）と調和したまち」、「観光・交流が盛んなまち」が共に 44.4%と続いています。

③今後の『計画的な土地利用の推進』について

「用途地域において道路や上下水道、公園等の整備を集中して行い、周辺地域は規制しつつ、計画的な土地利用を推進することが望ましい」が 66.7%と最も高く、次いで、「町全体にミニ開発が点在する中で、用途地域による土地利用規制は難しく、それ以外の方法で規制することが望ましい」、「しばらくは現状維持が望ましい」が共に 11.1%と続いています。

④まちづくりの優先度について

「市街地と農村」の優先度では、「どこでも暮らせるまち」が 66.6%、「都市環境と自然環境」の優先度では、「同じ」が 44.4%、「自然環境の保全を優先したまち」が 33.3%、「住民生活と観光振興」の優先度では、「同じ」が 55.6%、「住民生活を優先したまち」と「観光振興を優先したまち」が共に 22.2%となっています。

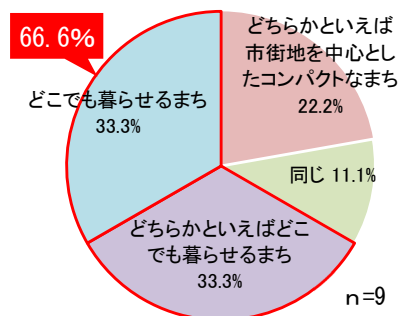


図. 市街地と農村

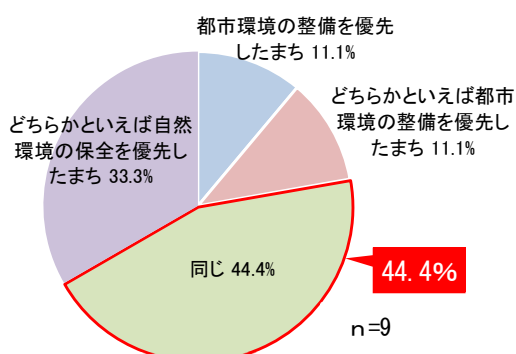


図. 都市環境と自然環境

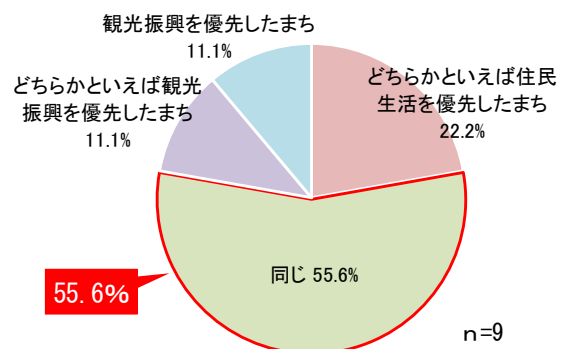


図. 住民生活と観光振興

●アンケート結果まとめ（国立公園地域）

- ・将来の山ノ内町については、「公共交通が充実したまち」「自然環境（国立公園など）と調和したまち」「観光・交流が盛んなまち」であることを望む意見が多い。
- ・まちづくりの優先度としては、特に「どこでも暮らせるまちづくり」を重視した意見が多い。
- ・「都市環境」と「自然環境」、「住民生活」と「観光振興」については、同程度重視されている。

(3) 地域の将来像

町の中程から東側に広がる山間部は、上信越高原国立公園の中心的部分に位置し、緑豊かな自然が保全されています。

この豊かな自然環境の保全に努め、次の世代へ引き継いでいきます。また、自然環境と調和し、国内外から人を惹きつける観光リゾート地としての魅力を維持・向上させ、活性化に取り組みます。

緑豊かな高原の保全と高品質な癒し・リゾート空間の形成

(4) 土地利用の方針

【都市計画区域内】

国立公園地域のうち、都市計画区域内については、国立公園の豊かな自然環境の保全に努めるとともに、自然環境と調和した観光リゾート地や森林セラピー基地の拠点としての取り組みを推進します。

- スキー場をはじめとする観光リゾート地では、周囲の自然環境と保全・調和に留意しながら、冬季利用や他のシーズンにおける魅力向上を図り、観光利用を推進します。
- 観光リゾート地や森林セラピー基地としての情報発信及び拠点の形成を図ります。
- 国立公園整備事業などを活用し、遊歩道や登山道などの改修・修繕を進め、安全に利用しやすい観光地づくりを推進するとともに、地域が行う施設の維持管理に対する支援を図ります。
- ユネスコエコパークの緩衝地域として、住民や観光客が自然環境を保全しながら環境教育を実践する場や自然やスポーツを楽しむ場としての活用など、特色を活かした観光地づくりを推進します。
- ユネスコエコパークの核心地域である志賀山周辺地区は、自然環境の適切な保全・継承を推進します。また、環境保全を重視しながら、教育や観光への利活用を推進します。
- 志賀高原総合会館 98 などの観光施設については、計画的に改修・修繕を進めます。

【都市計画区域外】

国立公園地域のうち、都市計画区域外については、国立公園の豊かな自然環境の保全に係る取り組みを推進します。

- 自然公園法を遵守し、国立公園の豊かな自然環境の保全に努めるため、今後も関係機関との連携を図りながら、国有林を適切に維持管理できる環境を整えていきます。
- 国有林を適切に維持管理することにより、豊かな水源としての水源涵養機能、山地災害防止等の多面的機能の高度発揮を維持します。

(5) 都市施設整備の方針

1) 道路・交通の方針

- 国立公園内の幹線道路や林道については、安全性・快適性を確保するため、狭あい区間の解消、バス通行の安全対策などによる道路の維持・改良を推進します。
- トレッキングや散策を楽しむ観光客の安全確保のため、宿泊施設周辺に位置する幹線道路の歩道整備などにより、トレッキング・散策コースの維持・改善を促進します。
- 雪に強い道づくりに向けた道路整備に取り組むとともに、冬期間における交通安全対策を推進します。
- 志賀高原へのアクセス道路については、路肩部分の除草、支障木の処理など景観に配慮した道路空間の形成を図ります。
- 環境負荷低減をテーマとした観光地づくりのため、国立公園ゾーンを中心として「自転車専用通行帯」の整備を推進します。
- 電気自動車など、環境負荷の低い自動車の利用環境の整備を推進します。
- 路線バスについては、通勤・通学、買い物、観光などの利用者ニーズを把握しながら、鉄道とバスの連携強化など、利用促進に向けた取り組みを推進します。

(6) 自然環境保全・都市環境形成の方針

- 「志賀高原ユネスコエコパーク活動支援補助金」の活用などを促しながら、志賀高原ユネスコエコパーク内の自然環境、生物多様性の保護・保全とそれに関わる地域の伝統産業、生活・文化の継承・発展を推進します。
- 豊かな自然環境を活かした高原リゾート地としての魅力向上を図ります。
- 国立公園内における開発行為については、国や県、地元関係者と連携し、環境に配慮した適切な管理を促します。
- ユネスコエコパークでの環境学習推進の拠点施設でもある長野県志賀高原自然保護センターの機能充実を県や地域の関係者等とともに推進します。
- 志賀高原ユネスコパーク協議会に参画し、管理運営計画に基づき、関係町村と連携して取り組みます。
- 地域住民と行政の協働による地域美化活動を推進します。

(7) 景観形成の方針

- 自然公園法を遵守し、森林地域の適正な保全に努めます。
- 自然環境を保全し、良好な森林景観を維持・創出するとともに、豊かな自然環境を活かした高原リゾート地としての魅力的な景観形成を図ります。
- 「渋の地獄谷噴泉」など、地域の文化財の保護・保存・活用により、歴史的景観を守り、受け継いでいきます。
- 良好な都市景観を阻害するおそれがある、又は、周辺に危険を及ぼすおそれがある空き施設や老朽化・廃業した建築物については、所有者に対して適切な維持管理や撤去を促していきます。

(8) 都市防災の方針

- 国や県、関係機関と連携しながら、森林の保全や自然災害を予防する治山・治水対策、地すべりやがけ崩れ等の土砂災害の防止対策に取り組みます。
- 老朽化した危険な空き施設については、周辺居住環境へ及ぼす危険性を速やかに排除するため、地域等と連携し状況の把握に努め、建替えや除却を促すなど、迅速な防災対策の強化に努めます。
- 地域防災計画や国土強靱化地域計画に基づき、指定緊急避難場所、指定避難所については、多数の避難者を受け入れるため、給水施設、非常用電源、各種トイレ、情報通信環境の整備など、安全・安心に避難できる機能強化を推進します。

